

外的要因による事象を主訴とする電話相談

～令和3年度 大阪府 # 8000の報告～

○山下 治子、福井 聖子、阿部 榮子、坂井 利衣、廣岡 由紀子
NPO法人小児救急医療サポートネットワーク

第32回日本外来小児科学会年次集会

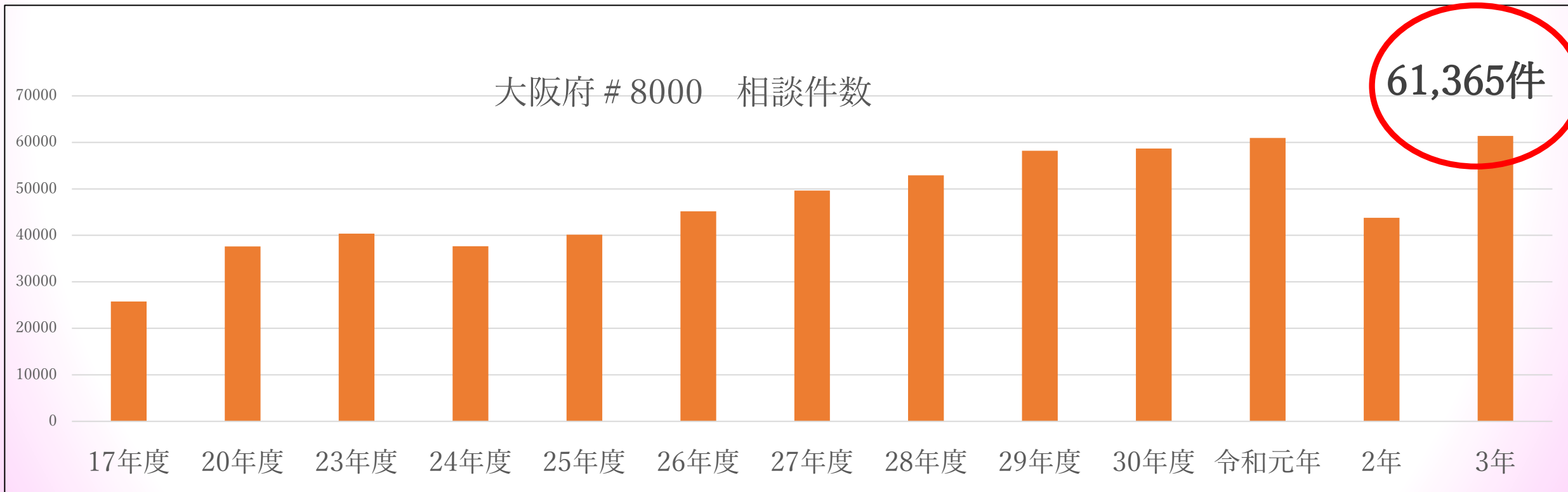
COI開示

発表者：○山下 治子、福井 聖子、阿部 榮子
坂井 利衣、廣岡 由紀子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係
にある企業等はありません

大阪府小児救急電話相談の概要

- 相談員：看護師
- 相談対応時間：365日 19時～翌日8時



【目的】

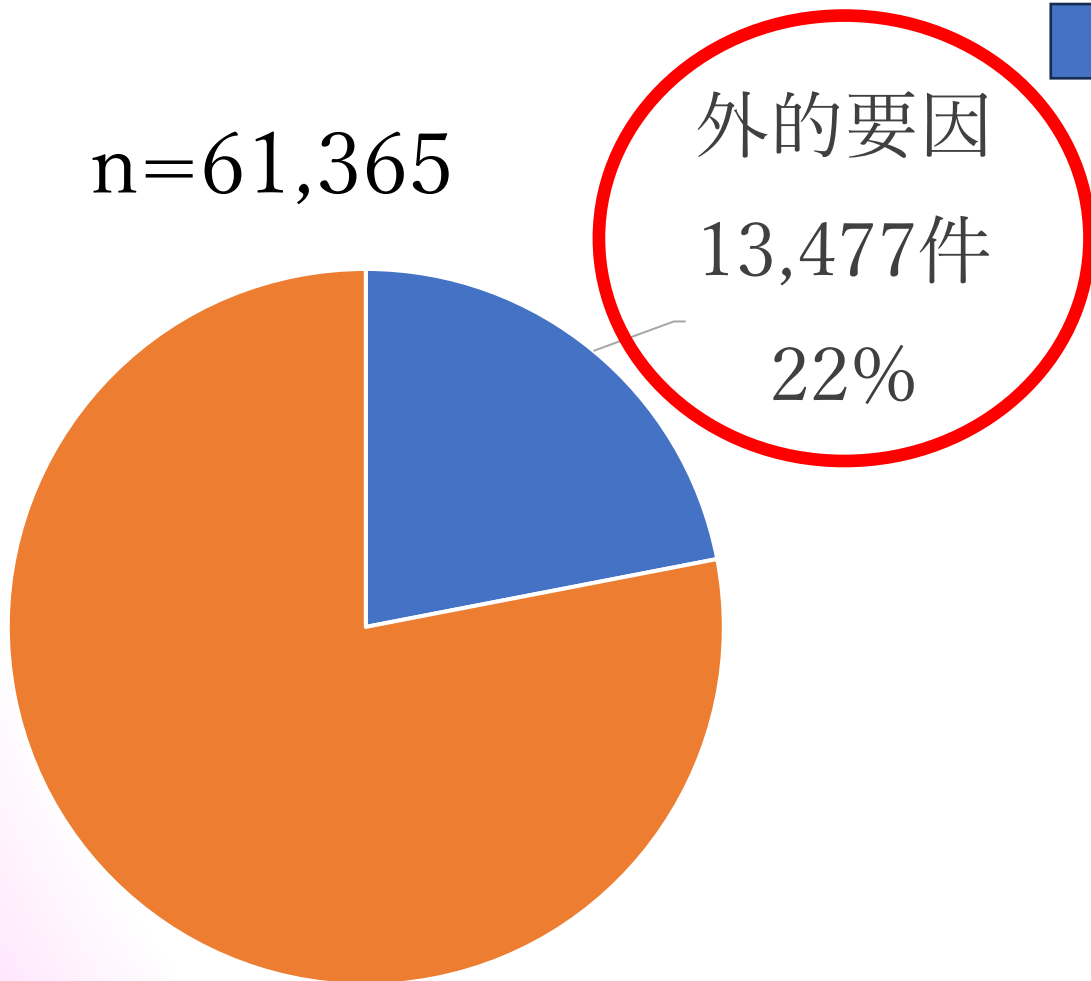
令和3年度の大阪府 # 8000への相談のうち外的要因による事象を主訴とする相談をまとめたので報告する

【方法】

令和3年度の1年間で大阪府 # 8000 に寄せられた全相談件数61,365件のうち頭部打撲,外傷,熱傷 誤飲の相談と手足の痛み,その他の項目のうち相談内容が外的要因に関するもの（鼻の異物や魚骨による咽頭異物,陰部に関する事象など）を抽出した

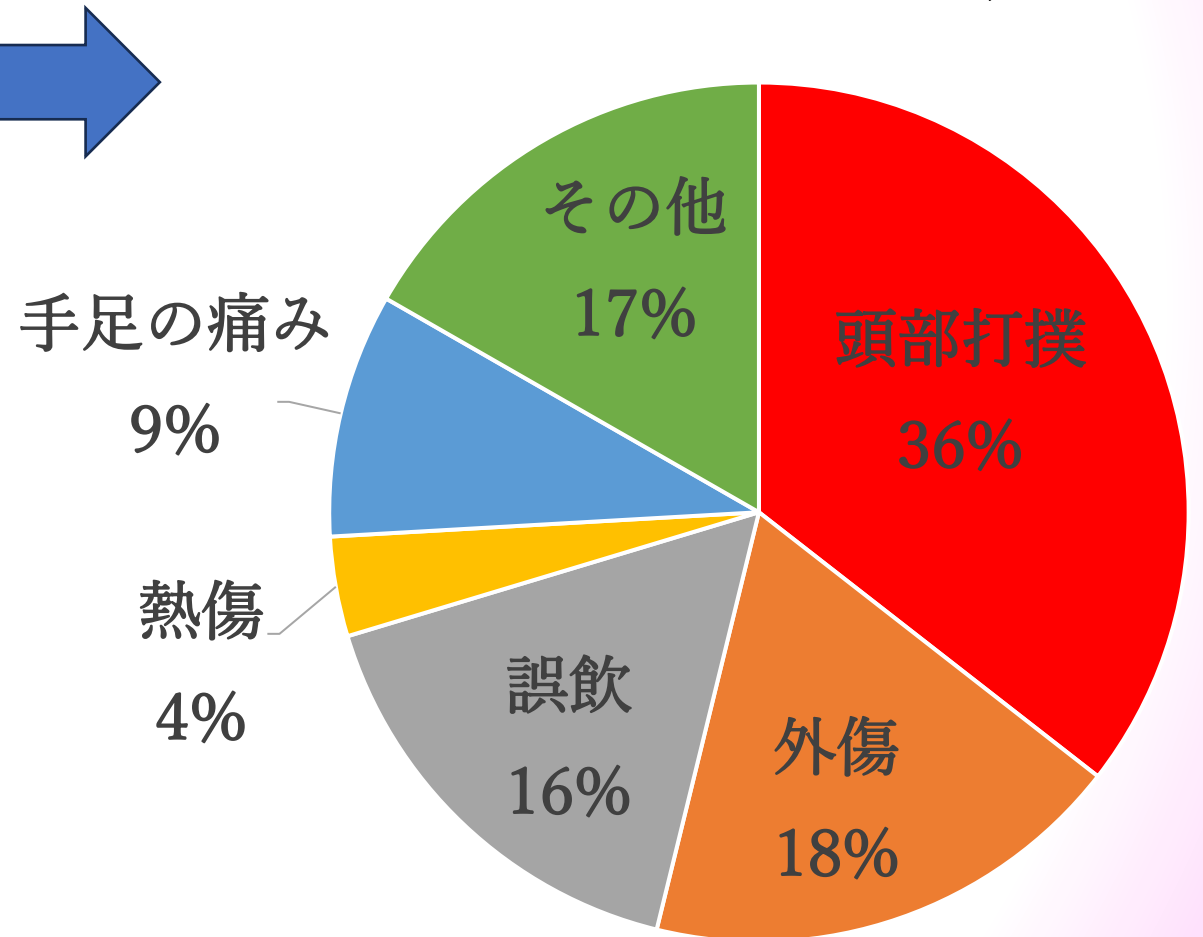
【結果①】

全相談件数中の
外的要因の相談件数



「外的要因」を主訴とした
相談の内訳

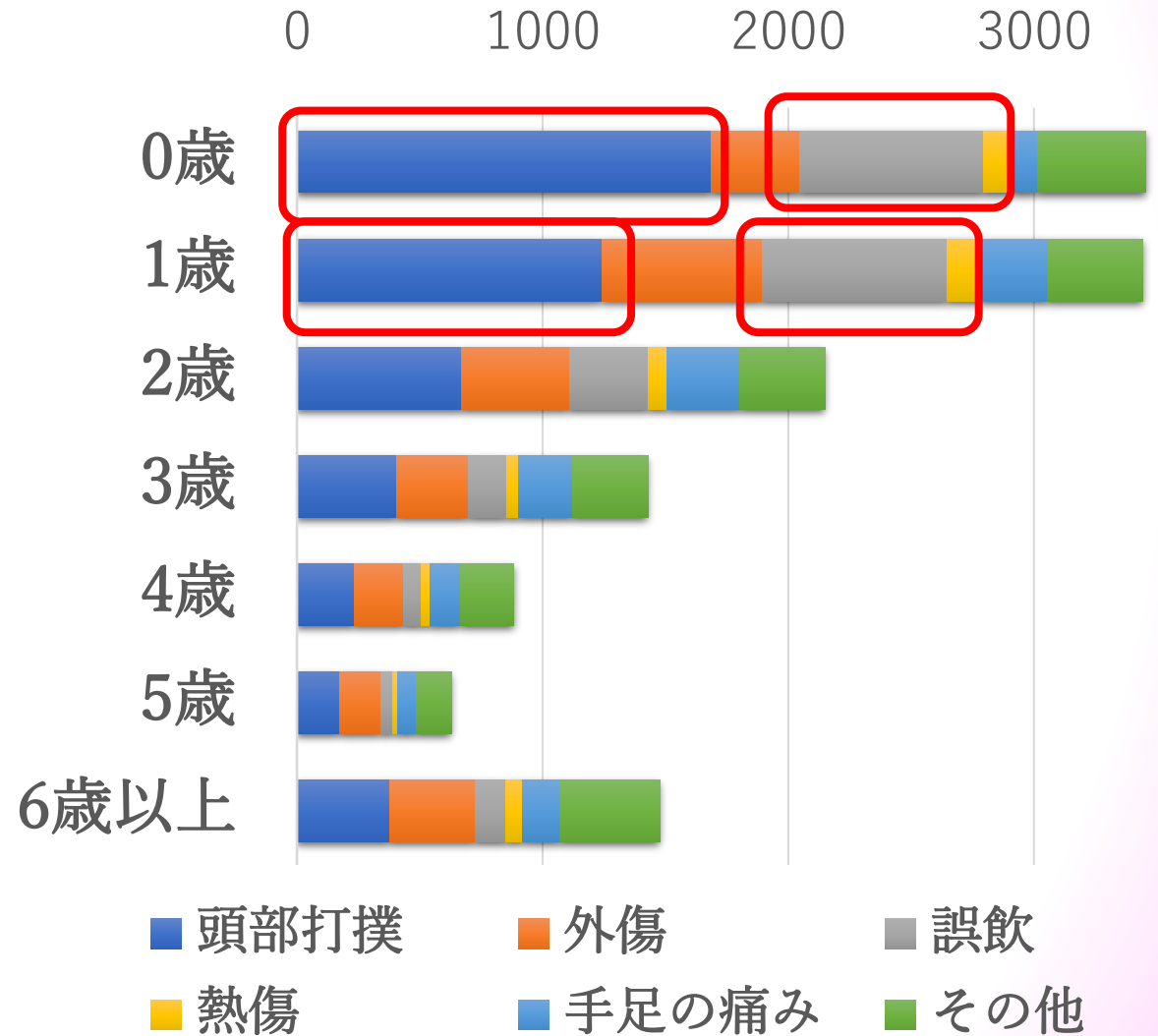
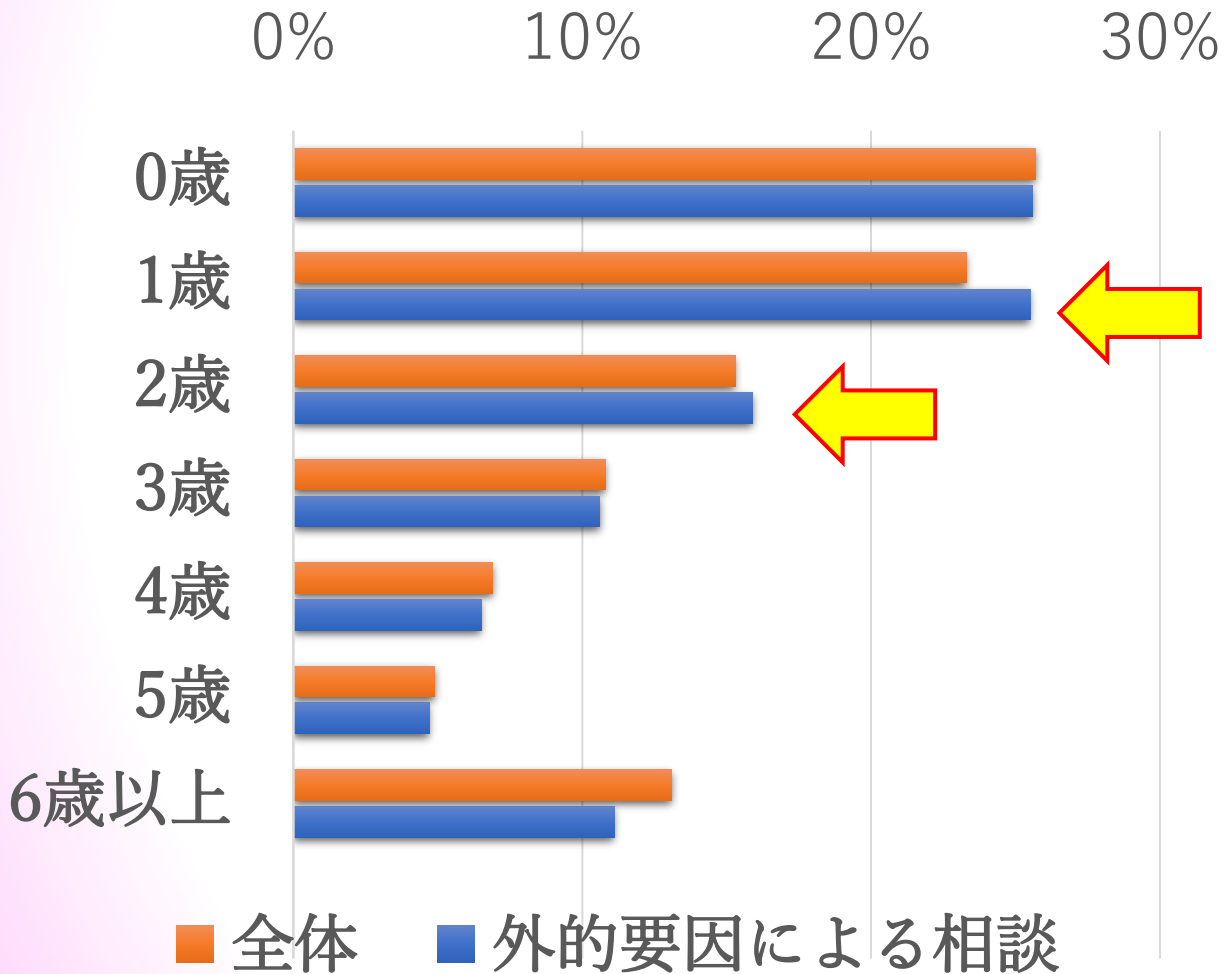
n=13,477



②年齢の比較

<全件数と
外的要因による相談件数>

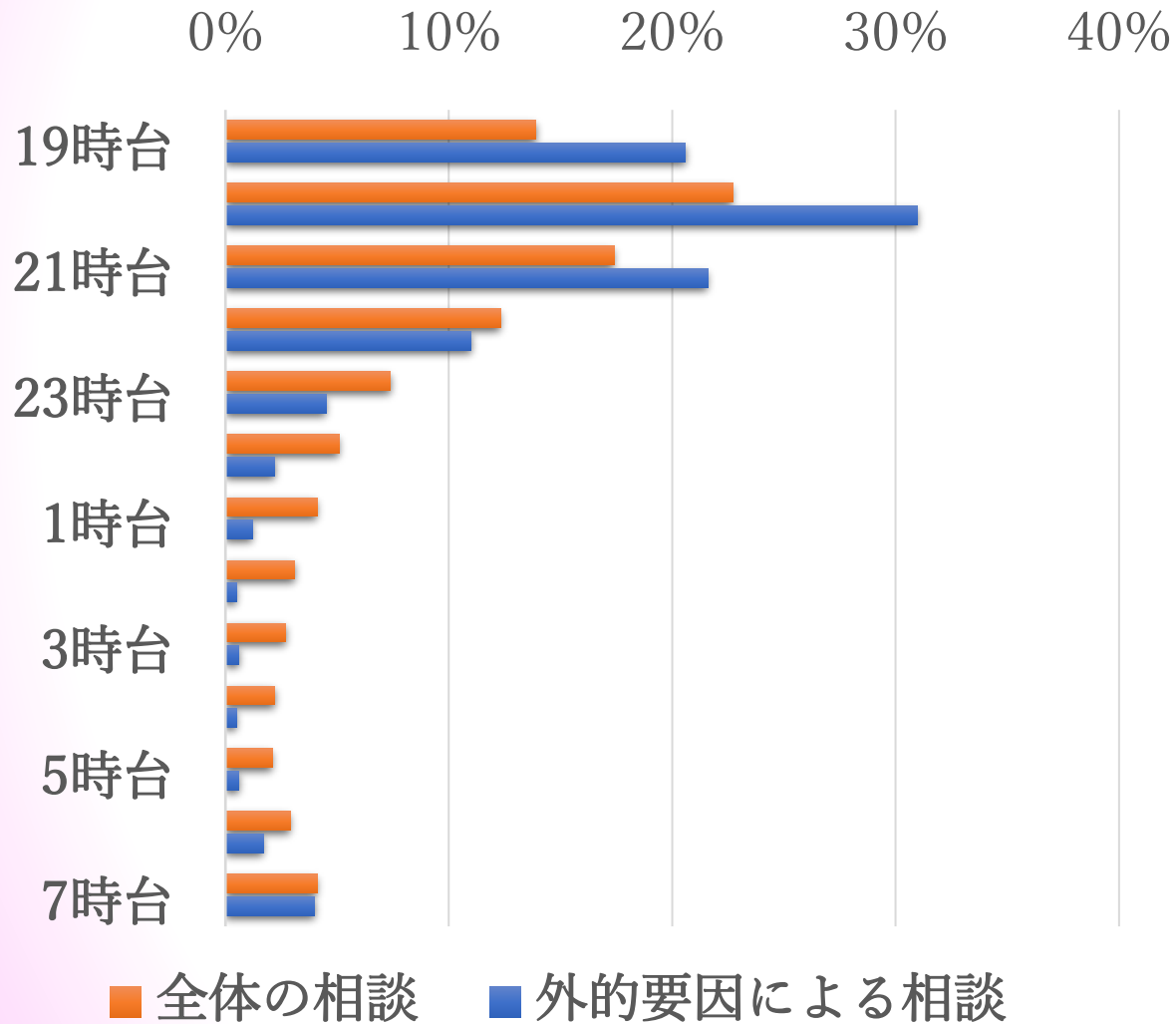
<外的要因による事象別相談件数>



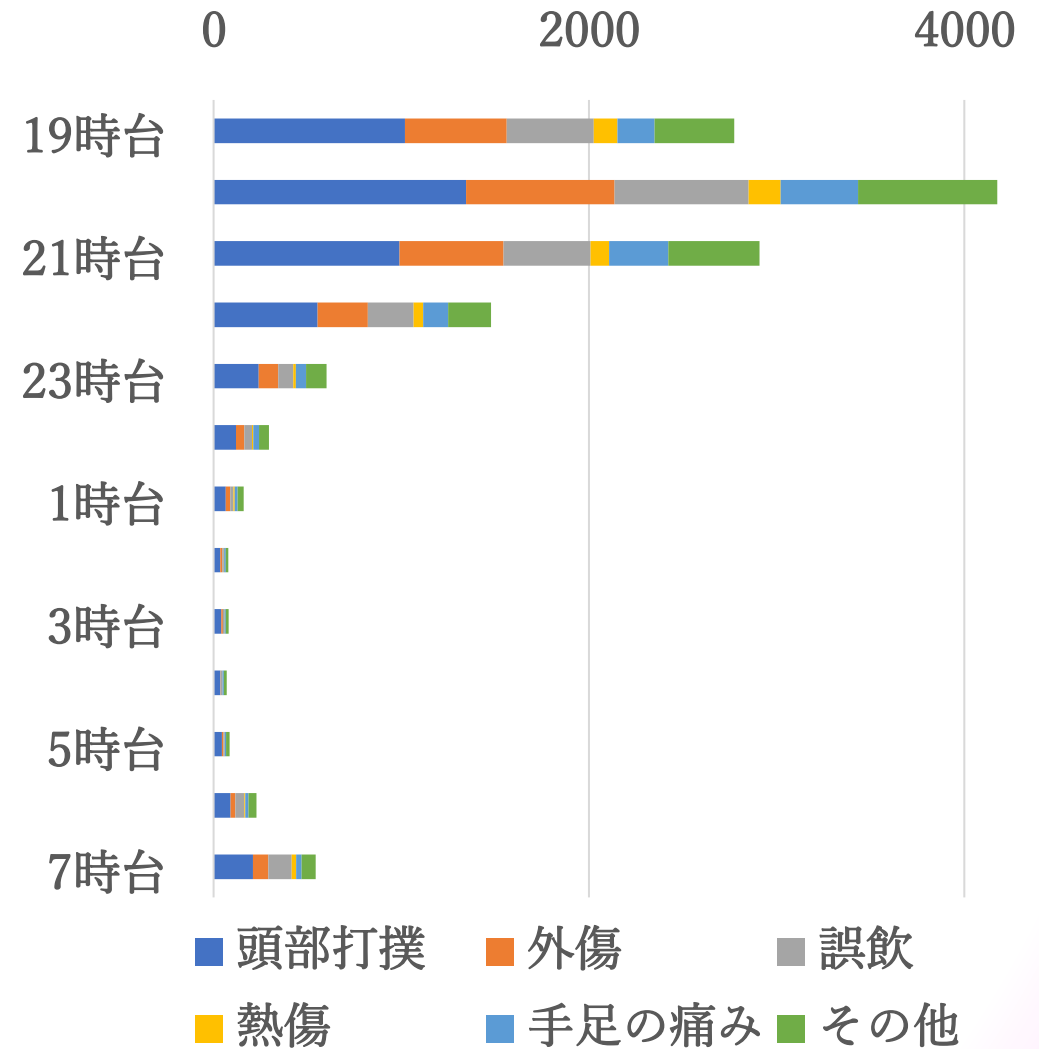
③相談時間の比較

<全件数と

外的要因による相談件数>

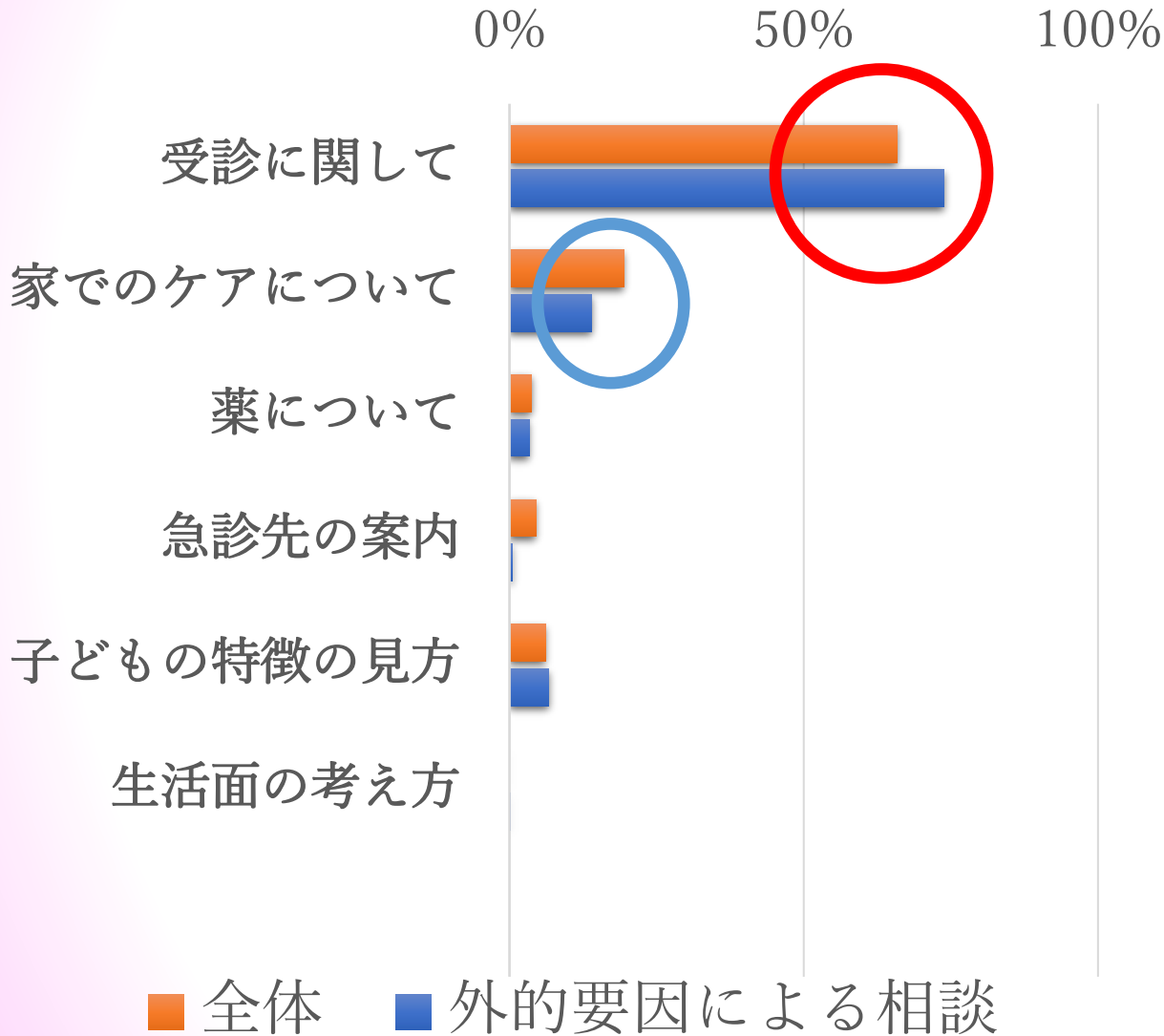


<外的要因による事象別相談件数>

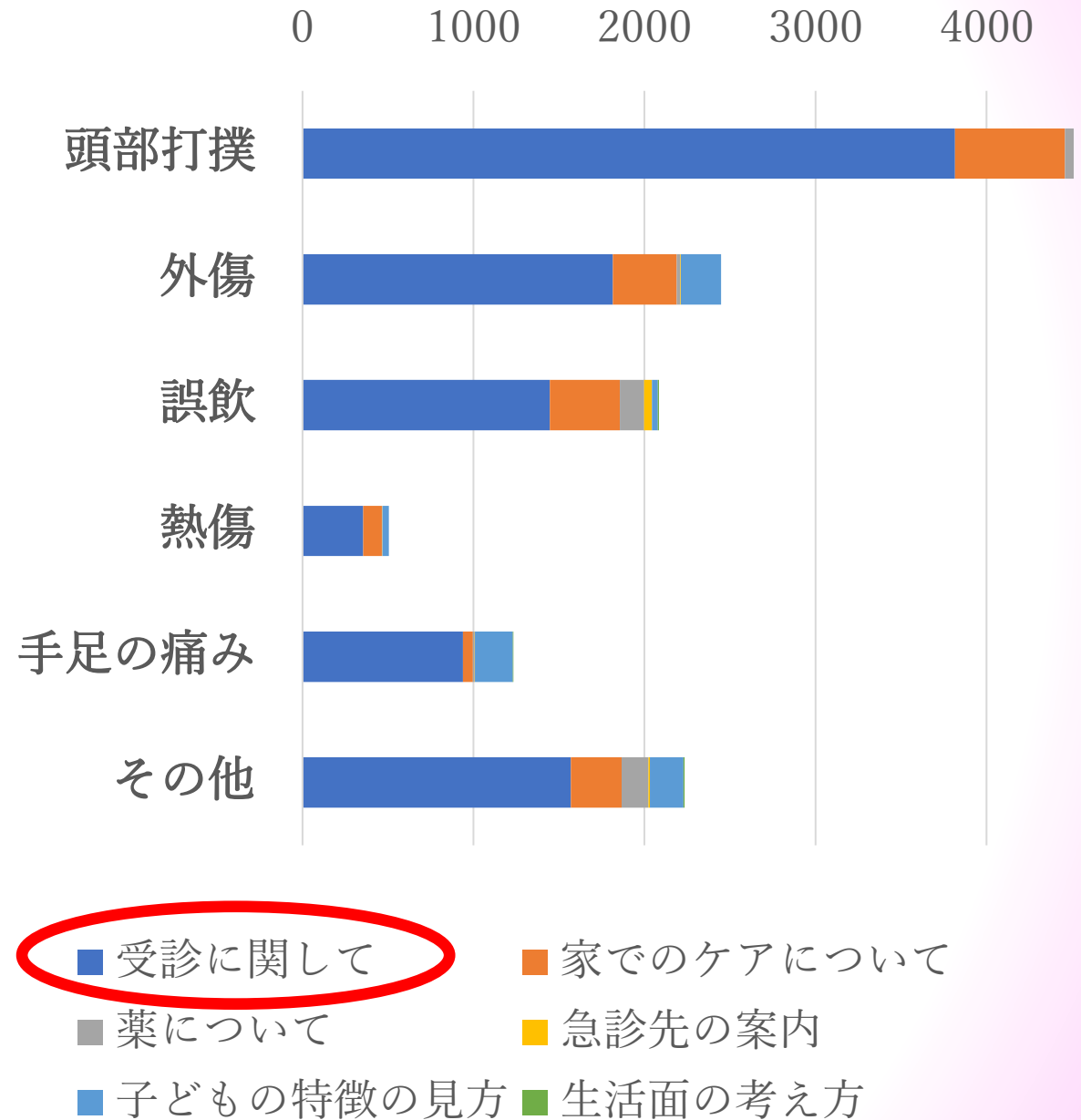


④相談内容の比較

＜全件数と
外的要因による相談件数＞



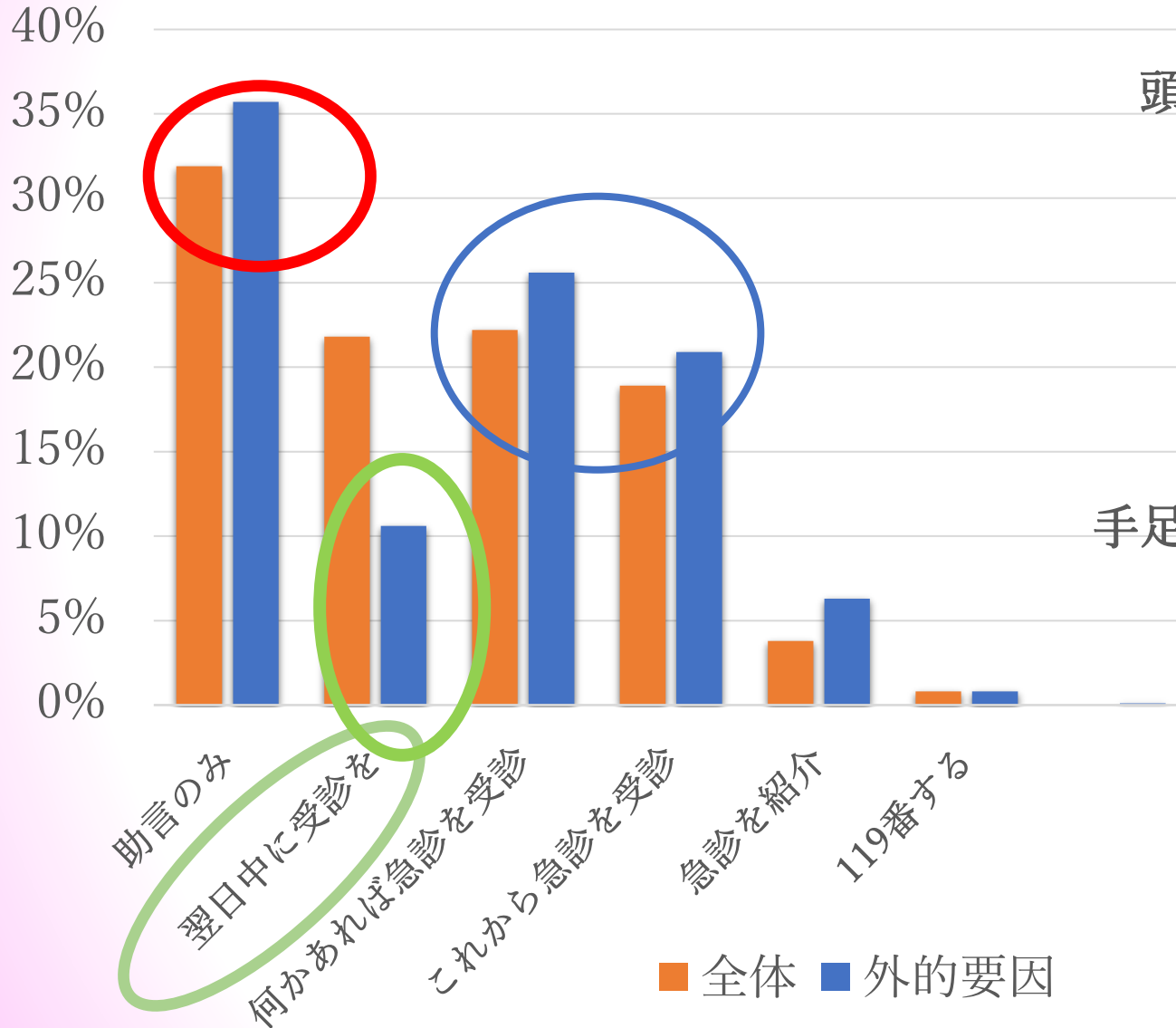
＜外的要因による事象別相談件数＞



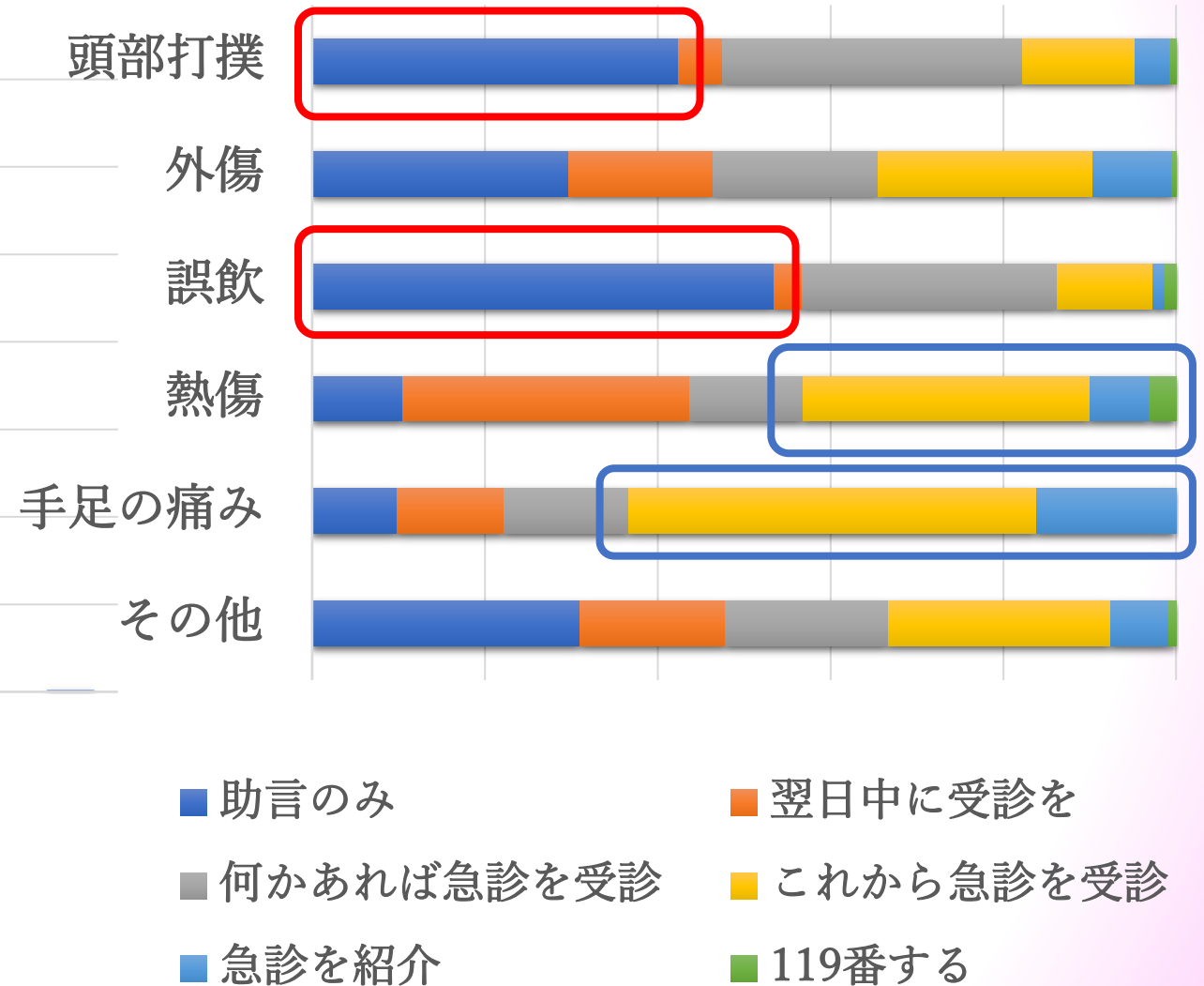
⑤相談後の対応の比較

<外的要因による事象別相談件数>

<全件数と外的要因による相談件数>



0% 20% 40% 60% 80% 100%



【考察】

- ▶ 外的要因に関する相談件数は全体の2割を占め、深夜帯も件数は少ないが相談はなくなる。これは子どもの就寝後に突然起こる手足の痛みや、日中に起こった事象に関して保護者の不安が急に高まることなどが理由として挙げられる
- ▶ 相談内容は「受診について」が大半を占めており、突然の外傷などによる子どもの啼泣で保護者は不安となり受診の判断に迷うことや頭部打撲や誤飲など生命の危機に直結するという恐怖心が反映することが考えられた
- ▶ 相談後の対応は「助言のみ」で済む相談も多く、#8000での傾聴とアドバイスにより保護者が落ち着いて子どもをみることが出来ていると言える
- ▶ 手足の痛みや熱傷では受診が必要と判断し受診を勧める場合が多いが夜間では外的要因による事象に対して受診可能な施設が明確でないことも保護者の不安が増強する一因である

【結語】

- 外的要因に関する相談は全体の2割を占め,そのうち8割が受診に関する相談であるが# 8000での相談により不安の軽減と家族看護力が向上し自宅での経過観察が可能となる相談内容も多い
- # 8000での相談に加え,対応可能な受診先の確保や明確化は保護者が安心して子どもをみることができの一因となる

ご静聴ありがとうございました

